

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組 1】(全巡回担当校)

校内別室を設置し、生徒の意思で登下校の時間と過ごし方を設定することで、安心して登校できる環境が整っている。



【取組 2】(A中学校)

校内別室指導支援員・担任・保護者・本人による面談を行い、生徒理解を深めるとともに、学校・家庭双方で支援の方向性を確認したり、役割分担を明確にしたりし、生徒が安心して過ごせる居場所の充実を図った。



【取組 3】(A中学校)

総合的な学習の時間に全校生徒で分担して、昇降口と裏庭を飾る花植えの活動(花いっぱい運動)を行っている。



【取組 4】(B中学校)

有志の生徒で行っている花植えの活動を不登校生徒にも声を掛けて実施している。

【取組 5】(A中学校)

運動会をはじめ上級生が下級生を教える場面を多く取り入れることで、生徒の主体性や意欲の向上につながり、きずなが生まれている。

【取組 6】(A中学校)

美術の授業に対し、生徒指導の実践上の視点を意識した授業の実現のための助言を行った。例えば、振り返りシートに毎時間の成果を具体的に記録し、生徒が自己評価できるようにしたことで、互いの作品を制作途中で鑑賞し合い、参考にし合ったり、褒め合ったりすることにつながった。また、自己決定の場の提供として、モチーフの配置や角度などを、こだわりをもって選択できるようにした。

【取組 7】(全巡回担当校)

校内研修の際に、過去4年間分の不登校生徒数の推移等をまとめた資料を作成し、共有した。各校の不登校の状況を把握することで今後の対策につながった。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（全巡回担当校）

週に1回実施し、管理職やSCをはじめ、各校10人ほどの教員が出席している。生徒の様子や今後の支援の方向性などについて話し合うことができている。不登校生徒の情報のみならず、日常の生徒の様子も共有されるため、不登校の未然防止に役立っている。

アウトリーチによる支援（全巡回担当校）

付き添いがあれば登校できる生徒がいるため、毎週決まった時間に迎えに行っている。当該生徒に面会できない時は配布物をポストに投函し、学校からの連絡が途切れないようにしている。このような月1回程度の面会を徹底して行っている。

校内別室における支援（全巡回担当校）

A中、B中、C中では、心理的に不安定な状況の生徒に校内別室を紹介し、教室での活動中に不安が強くなった際にいつでも利用できるようにしている。

D中、E中では、決められた時間に校内別室に登校し、教員との会話や学習支援を受けられる環境が整っている。

全ての巡回校で、教室に入ることが難しい生徒を対象に、始業式前日までに校内別室の見学会を実施した。長期休業日中の様子を聞いたり、始業式当日の流れや新学期の予定を話したりして、新学期に向けた不安を軽減した。



デジタル機器を活用した支援（B中学校）

校内別室を利用している生徒に、一人1台端末を使用して、教室からのオンライン授業を配信している。場合によって自宅でも授業に参加できるようにしている。また、一人1台端末を使用して学校生活に関するアンケートも行っている。

関係機関との連携（全巡回担当校）

登校支援室や教育支援センターとこまめに連絡を取り合い、連携して個別の支援を行っている。また、小学校の元担任に小学校時代の生徒の様子を聞き、対応の参考になる助言をもらった。さらに、こども家庭センターの職員と連携し、家庭訪問等を一緒に行っている。

成 果

校内別室指導支援員・学級担任・家庭が連携を取り合うことで、生徒の状況に応じた、支援を行えるようになった。そうすることで、校内別室が学級以外の安心できる居場所となった。

課 題

家庭訪問の方法や、校内別室の運用が各校で異なることや、校内別室への登校はできても、教室復帰が困難な場合があることが課題である。